

**同窓会会報**

第44号

平成1年12月28日  
発行所  
茨城県東茨城郡  
内原町鯉淵5965  
**鯉淵学園同窓会**  
TEL 0292-59-2811  
振替口座 宇都宮3-1632番  
印刷所  
佐藤印刷株式会社

## 学園と同窓会の発展を誓う

同窓会々長 渡 迎 正 信



謹啓、會員の皆様には御健勝にて活躍のこととお

喜び申し上げます。この度、第十九回同窓会大会で会長に選ばれましたのでご挨拶申し上げます。私達が、学園を卒業した事は生涯の履歴であり、学園が発展すること、同窓会員の皆様の栄達・幸福が、私達の喜びであり、また社会的評価の高まりでもあります。故に、学園をどこまでも育てて守っていくこと、會員が手を携えて扶け合い励まし合って栄えていくことのために、誠心誠意尽していくことをお誓い申し上げます。そのため何をおもひに申すに及ばず、

皆様との連携の第一は会報でありますので、学園と同窓会の近況を親しみ易い記事で、十二月と六月の定期に発行いたします。

**支部活動の強化**

学びのふるさとなつた者同志が、地域で職場で連携を強め、活躍の糧ともなり、この手の温もりに喜びを得るため、支部活動の強化を図ります。まず第一に茨城支部の活性化に努めます。どうか貴県においても支部の集いを計画して下さい。本部より誰かがはせ参じます。

**分収林に魂を入れて育てる。**

四十周年記念事業として始めた、「三・三haの分収林は、六十年後に伐採し収益を同窓会七・国三の割合で取得することとなっております。その間の費用は全額同窓会が負担していますが、樹は

生物であり、「主人の足跡を見て育つ」ものでありますので、足繁く通うことよって管理の要諦を把握し、樹に魂を入れる心で当ります。

**事務局の充実**

同窓会事務局には、事務局長の下に、総務部、組織部、情報部があり、学園内會員が部長、部員を担っています。これが機能していませんでした。学内で充分話し合い活性化して機能させていただきます。

**財政の確立**

これが何よりも重要です。皆様からの会費の納入がなくては、何もできません。昭和五十年頃までは、三〇％台の納入率でありましたのに、最近では十％を割るまでに陥込んでおります。そのため、会報も定期に発行できず、支部からの要請にも応じられず、学園への協力もできない状態であります。どうか皆様には窮状お察し下さり、会費納入をお願いいたします。そのため、会報の気配りをしていきます。また、会報の下欄に名刺広告欄を設けます。皆様の議員当選や、職場での昇格、会社や自家農産物の宣伝などに〇〇期卒を入れてご活用下さい。また同窓会を助けると思つてご協力をお願い申し上げます。

**名簿の発行**

會員の消息を洩らさず把握することに努めます。先日発行しました四三号は、百余通が宛先不明で学園に戻って

きました。名簿の不備もありますが、消息を知っている方はぜひ事務局にお知らせ下さい。平成三年に新しい名簿を発行いたします。またこの名簿にも広告を巻末に載せて経費の節減をはかりたいと思つたので、会社や団体の皆様は何卒ご協力をお願い申し上げます。

**学園の活性化を図る。**

学園は在学生が、学生生活に喜びと誇りを感じ、後輩を招くような活力ある学園になることが何よりも重要です。幸い私は囑託教授として週二日通っていますので、森羅万象すべてを材料にして学生の心に訴え、活性化をはかります。協会・学園と一体となって発展策を講ずる。

三者の意志が常に跡通し、二十一世紀構想を策定し、お互いの機能を發揮し、一体となつて外部に当たっていきたくと思つていきます。過去のことを詮索するより、前に向つて体を張つて学園の将来に夢をかけていきます。

同窓会館や旧事務所、教室の改築をはじめ、数々の実績を残されました。和田文雄前会長の御功績に対し、深甚なる敬意を捧げるとともに厚く感謝申し上げます。前会長に較べると、私はまことに未熟な小さな器であります。會員皆様様の御協力と御指導なくしては何事もできません。何卒々々よろしく御支援下さいますようお願い申し上げます。

会報の定期発行

# 第十九回同窓会大会報告

平成元年十一月十八日(土)鯉淵学園  
五番教室に二十五名の代表者が集まり、  
第十九回の同窓会大会が開催されまし  
た。

大会は式次第により、和田会長の挨拶、続いて、松本学園長の来賓挨拶がなされた後、議長に鈴木光雄氏(次城八期)を選出、書記に鈴木由美子氏(学園職員)、議事録署名人に西村典夫(学園四期)、増山勝(次城七期)、白土忠男(東京九期)の各氏を任名して議事に入りました。

議題の昭和六十三年、および平成元年度事業報告並びに決算報告承認の件、平成二、三年度事業計画並びに予算の件、会則の一部改正の件、平成二、三年度役員選出の件については、執行部の報告・提案並びに推薦委員会の役員推薦においては、附帯決議事項をもって役員推薦の通り承認可決されました。大綱は次の通りです。

## 一、昭和六十三年度

### 並びに平成元年度事業報告

第十八回大会の決定に基づき実施いたしました事業は次の通りです。

#### (一)、会報の発行

第四一号 昭和六十三年一月二十五日  
第四二号 昭和六十三年八月八日  
第四三号 平成元年九月三〇日

#### (二)、学園歴史の発行

前年度よりの継続の事業でありましたが、いまだに発行しておりません。寮史全体の年表部分に關しましては、仮印刷を終了させておりますが、当初の計画どおり進まず、次年度に継続の状況です。

#### (三)、分収林の管理

東京営林局との分収林契約に基づき、高萩営林署の指導により、分収林三・三haの管理(下刈)を実施いたしました。尚、昭和六十三年四月十四日に分収林現地視察を実施いたし、会報四十二号に掲載いたしました。

#### (四)、支部組織の強化

支部会への役員派遣  
昭和六十二年十二月  
埼玉支部会 和田会長  
宮崎支部会 菊池事務局長  
昭和六十三年三月  
千葉支部会 和田会長  
昭和六十三年四月  
静岡支部会 和田会長  
昭和六十三年六月

兵庫支部会 浦井広報部長  
昭和六十三年七月  
岐阜支部会 砂田常任委員  
昭和六十三年十月

岩手支部会 松本学園長  
平成元年六月  
栃木支部会 菊池事務局長  
平成元年九月  
岩手支部会 関常任委員  
平成元年九月

他に、昭和六十三年七月に福井支部より、また、平成元年六月に兵庫支部より事務局役員の派遣要請がありましたが、都合により欠席させていただきました。

#### (五)、学園への協力

① 学生募集への協力(会報、支部会)  
② 学園長と支部役員との懇談  
岡山、熊本、青森、鳥取、島根の各支部役員(会員)との懇談に事務局が仲介して実施しました。

## 二、昭和六十三年

### 平成元年度決算報告

両年度の決算報告は別紙決算書の通りです。

## 三、平成二・三年度事業計画

#### 一、会報の発行

第四四号 平成元年十二月十日

第四五号 平成二年六月十日  
第四六号 平成二年十二月十日  
第四七号 平成三年六月十日

一、会員名簿の発行  
平成三年に発行  
三、支部組織の強化  
四、学園への協力(学生募集他)  
五、寮史の発行  
六、分収林の管理

## 四、平成二・三年度予算

両年度の予算は別紙予算書の通りです。

## 五、会則の一部改正について

会則第五章 会計、第二十八条の一部を以下のように改める。

#### (旧)

#### 第五章 会計

第二十八条 会費は一括終身会費として納入することができる。終身会費は学園卒業または修了後五年以内の者は四万円、六〜十年の者は三万七千五百円、十一〜十五年の者は三万五千円、十六〜二十年の者は三万二千五百円、二十一〜二十五年度の者は三万円、二十六〜三十二年の者は二万七千五百円、三十一〜三十五年の者は二万五千円とする。

#### (新)

#### 第五章 会計

第二十八条 会費は一括終身会費と

監事

武内十郎 東京四期  
 工藤、池田、神谷、井上  
 小沼、入江、山本、涌井  
 西村、関、坪野、菊池  
 学園在職会員全員

六、平成二・三年度役員  
 会長 渡辺正信 茨城七期  
 副会長 福丸博房 東京九期  
 常任委員長 高橋隆三 学園九期  
 常任委員 市野沢弘 茨城十期  
 三次えい子 茨城十一期  
 奥下寿宣 茨城十一期  
 堀田 弘 茨城十五期  
 江幡ゆき子 茨城二十三期  
 本田 茂 栃木四期  
 清水源也 埼玉七期  
 白土忠男 東京九期  
 石田善吾 東京十六期  
 葉丸文明 神奈川八期  
 学園在職会員全員

して納入することができる。終身  
 会費は学園卒業または修了後五年  
 以内の者は四万円、六十年の者  
 は三万七千五百円、十一～十五年  
 の者は三万五千円、十六～二十年  
 の者は三万二千五百円、二十一～  
 二十五年の者は三万円、二十六～  
 三十年の者は二万七千五百円、三  
 十一～三十五年の者は二万五千円、  
 三十六年以上の者は二万二千五百  
 円以上とする。

昭和 63 ・ 平成 元 年 度 決 算

1. 一般会計

1) 財産目録

科 目	金 額 円	摘 要
資産の部		
現金	61,473	学園総務部に保管
預 金	200,000	*預金明細参照
負債の部		
借入金	1,150,000	基本金会計より借入れ
預り金	200,000	渡辺氏より
純 財 産	△1,088,527	

2) 収支明細表

収入の部

科 目	決算額円	予算額円	比較増減円	
前年度繰越金	33,412	33,412		
会 費	1,921,500	3,600,000	△ 1,678,500	570 名
名 簿 代	870,300	1,250,000	△ 379,700	348 部
その他収入	206,262	500,000	△ 293,738	寄付・預金
合 計	3,031,474	5,383,412	△ 2,351,938	

支出の部

科 目	決算額円	予算額円	比較増減円	
会報発行費	1,340,858	1,280,000	60,858	
通 信 費	155,920	300,000	△ 144,080	切手他
人 件 費	320,000	840,000	△ 520,000	
事 務 費	148,050	200,000	△ 51,950	封筒代他
会 議 費	214,090	400,000	△ 185,910	常任委員会 事務局会議
旅 費	465,760	800,000	△ 334,240	支部会・常任委員会
返 済 金	300,000	1,000,000	△ 700,000	基本金会計へ返済
雑 費	25,323	200,000	△ 174,677	電報他
予 備 費		363,412	△ 363,412	
合 計	2,970,001	5,383,412	△ 2,413,411	

収支差額 61,473  
 (次年度繰越)

2. 基本金会計

1) 財産目録

科 目	金 額 円	摘 要
資産の部		
預 金	3,475,576	61・62年度 150万 63・平元年度 1,975,576
貸付金	1,150,000	59・60年度 40万 61・62年度 75万
合 計	4,625,576	
負債の部		0
純 財 産	4,625,576	

2) 収支明細表

収入の部

科 目	金 額 円	摘 要
前年度繰越金	138,076	
入 会 金	1,537,500	63年度 7,500 × 115 元年度 7,500 × 90
返 済 金	300,000	一般会計より
合 計	1,975,576	

支出の部

科 目	金 額 円	摘 要
預 金	1,975,576	
合 計	1,975,576	

収支差額 0

3. 特別会計

1) 財産目録

科 目	金 額 円	摘 要
資産の部		
現金	510,567	学園総務部に保管
合 計	510,567	
負債の部		0
純 財 産	510,567	

2) 収支明細表

収入の部

科 目	金 額 円	摘 要
繰 越 金	1,433,871	40周年記念特別会計より
分収林補助金	169,284	
預 金 利 子	34,924	
合 計	1,638,079	

支出の部

科 目	金 額 円	摘 要
寮 史	646,700	
育 林 事 業	480,812	S.63・H.元下刈代金
合 計	1,127,512	

収支差額 510,567  
 (次年度へ繰越)

# 白田喜代志先生叙勲のお知らせ

白田先生は、学園において永く生活栄養科の教授として、栄養指導、学生生活指導にかかわられて来ました。また茨城県栄養師会の会長としても活躍、



業績は多大なものがありました。それから永い間の功績が認められ、十一月三日(文化の日)に勲五等瑞宝章を受賞されました。私達同窓生といたしまし

ても先生の栄誉をとくに喜びわかちあいたいと思います。白田先生、本当におめでとございます。今後とも、私達に尚一層の御指導も合わせて賜わたくし思います。

朝日新聞に掲載された記事ですが、内容通りに本会報に掲載いたします。

## 所在不明者名簿

前号の会報に一期〜十九期までの会員の所在不明者の名前を掲載させていただきます。今回は二十期より三十三期までの所在不明となっております方々の名前を掲載いたします。

### (二十期生)

### (二十一期特選)

- 平良(田島)勝子
- 篠原 サグ子
- 梶谷 哲生
- 川上 芦求
- 菅原 繁樹
- 安藤(永瀬)和子
- 甲斐沢 誠
- 黒川 紀昭
- 奥野 信一
- 高橋 忠彦
- 棚谷 厚生
- 広岡 国雄
- 滝沢 淳次
- 阿部 茂雄
- 杉野(岡田)よし子
- 宮本(黒田)泰輔
- 中山 義美
- 星野 半之助
- 大山 信義
- 荒木 盛一
- 津波古 勇
- 合志 文夫
- 吉村 保宏
- 吉村(藤井)ムツヨ
- 寺沢 弘道
- 伊勢 隆夫
- 田上(末武)政則
- 横尾 保幸
- 長嶺 ツル
- 松崎 迪雄
- 白坂 明弘
- 石崎 元郎
- 小野 宏靖
- 杉山 早苗

## 岩手県支部総会に参加して

関 正 治

総会は、三〇名(会員一三五名)の参加を得、平成元年九月十六日、北上市「北上翠明荘」で開催された。鷹野武会長(四期)から、会員の相互親睦のため支部組織を一層強化したい旨の挨拶、次いで私から同窓会本部報告、学園の実状、学生募集協力を含めて祝辞を述べ、久保良雄氏(二期)の座長で議事に入った。詳細は省くが

感じた点を一、二紹介すると、まず支部組織体制が整備(九分会、期別・住所・電話・職業・役職記載名簿作成・連絡網)されていることであり、他支部の参考となる。次に、若い会員が参加できる総会にする努力がなされていることである。学園同窓会支部強化の一事とされる。次期支部会長には、三期の佐藤節夫氏が選出された。



「基本は食事」と栄養士に  
白田先生は、栄養指導の専門家として、学生生活指導にかかわられて来ました。また茨城県栄養師会の会長としても活躍、